

東京多摩工場に太陽光発電設備を増設しました

森永乳業株式会社東京多摩工場は、工場の施設内に太陽光発電設備を増設し、稼働しました。

東京多摩工場は、2003 年に太陽光発電設備を導入して以降、再生可能エネルギーを活用した GHG 削減を進めています。今回新たに、製造施設の屋上に太陽光パネル 1,440 枚を設置、発電設備パネル容量は 540kW で、年間推定発電量は約 560MWh、年間 CO₂削減量は 226tを見込んでいます。これらの取り組みにより、同工場での使用電力における再生可能エネルギー比率は、約 12%となります。また、本取り組みは東京都の助成事業である『地産地消型再エネ増強プロジェクト事業(令和 2~5 年度)』にて、助成金の交付が決定しています。

当社グループは、東京多摩工場に加え、利根工場(発電出力:500kW)、株式会社フリジポートの熊本工場(発電出力:800kW)にも太陽光発電設備を導入しており、年間約 1,000t の CO₂削減に取り組んでいます。



増設した東京多摩工場の太陽光発電設備

森永乳業グループは、コーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」のもと、サステナビリティ経営の実現を目指し、「『おいしいと健康』をお届けすることにより、豊かな“日常・社会・環境”に貢献し、すべての人のかがやく笑顔を創造し続けます」というサステナビリティビジョンを掲げています。このサステナビリティビジョンの実現に向けた活動を推し進めるべく、2022 年に「サステナビリティ中長期計画 2030」を策定しました。これからも地域コミュニティとの共生を目指し、お客さまの健康で幸せな生活に貢献したいと考えています。

以上